

2025 年 9 月 21 日（聖霊降臨後第 15 主日・特定 20、C 年）

メッセージ

「不正にまみれた富で友達を作りなさい」

（ルカによる福音書16:1-13）

司祭ヨセフ太田信三

「不正にまみれた富で友を作る」とは、どういう意味なのでしょう。富はわたしたちが生活をしていく上で必要不可欠なものです。そもそも富は神様からの賜物であり、わたしたちがそれを正しく用いることができるなら、それはすばらしいものです。しかし富は、神に成り代わる程の魅力を放ち、人間を引き寄せ、いつの間にか人間を支配します。そして墮落させ、道を踏み誤らせる力があります。この富の力に対し、人間は神様からの賜物を正しく用いることができない弱さを持っています。今日の旧約聖書で読まれるアモス書は、その良い例を示します。

アモスは紀元前 8 世紀、繁栄した北イスラエル王国で活躍した預言者です。しかし当時の北イスラエル王国は、繁栄していてもその現実是不正がはびこっていました。貧しい人々から不正に搾取し、私腹を肥やしていた金持ち達があり、そのような人々をアモスは厳しく糾弾しています。金持ち達はどうすれば利益を増やすことができるかで頭がいっぱいでした。彼らは、大切な宗教祭儀や安息日は商売ができなくなるから邪魔だと思っています。確かに豊かな生活を享受する者は、それなりの努力をして豊かさを手に入れたのかもしれませんが。他人を踏み台にしているとは、おそらく思ってもいないでしょう。それゆえ、搾取されている側、痛めつけられている人間の痛みが分からず、実に無自覚に、おおらかに豊かな生活を享受しています。アモスはその無頓着さを批判し、滅びの到来を預言したのです。一部の人間が富を独占する、しかも不正に独占すること。それは、一方では誰かの富は取り上げられ、その命すら奪っているということに他ならないからです。そして人の命をも奪うその富は、もはや「不正にまみれた」ものとなってしまっているのです。

残念ながら、この現実は今もまったく変わっていない、わたしたちの世界の現実です。どうしても人は富に魅了され、人がそれをを用いる限り「不正にまみれた」ものとなってしまいます。そういう意味で、富そのものは汚れたものではないにもかかわらず、主イエスは「不正にまみれた富」と言われ、しかし、そのような不正にまみれた富であっても、どのように用いるかが大切だと仰っているのです。

富は人を狂わせ、人を殺しもします。しかし、まったく逆に、人を生かし、人と人との関係を繋ぐものにもなりうる、と主イエスは今日のたとえで教えています。誰も「神と富とに仕えること」はできません。たとえ「汚れた富」でも、それを神と人とのささげ、賢明に用いるならば、「良くやった」と言って、まことの友と永遠の住まいを与えてくださるのがわたしたちの神です。ですから、自分は今、神に仕えているか、富に仕えているか、それが分かれ道であることを忘れずにいたいと思います。